

観光からみた韓国の文化遺産

金美貞（韓国文化遺産観光コーディネーター）

こういうシンポジウムに、自分の原稿を発表するのは初めてで、結構足がぶるぶるしているんです。初めまして。私は、韓国の釜山で観光会社に勤めて、観光案内している金美貞と申します。よろしくお願いします。

最初、パネリストとして発表を頼まれたとき、今発表なさっている皆様に比べても、一番学歴がないので、何を発表したらいいのか、すごく悩みました。自分の仕事が観光案内でずっとやっていたので、仕事のことと、仕事をしながら感じたものを皆さんにちょっとお話したいと思いました。

私は釜山で勤務しておりますので、釜山から出発して、普通にパッケージツアーで案内する所は、いろいろ多いのですが、今回は、釜山のポモサ、梵魚寺というお寺、そして、世界遺産を韓国でも一番多く持っている町、慶州の4か所の文化遺産について紹介しようと思っています。



金美貞氏

釜山・梵魚寺

釜山は今、約380万の人口で、韓国第二の都市になっています。貿易港で知られているので、港町としてよく知られている町なんですね。そういう町なので、歴史的なものといったら、これというものはないかなと個人的に思って、梵魚寺を選びました。この梵魚寺、ポモサというところは、資料に書いてありますが、「金の井戸の山」と書いてあるんですね。「金色の井戸が山の上であって、梵天から金の魚がおりてきて、その井戸で遊んだ」ということが説話や神話の類にあり、お寺の名前になっているんだそうです。

建築年代は、678年、これもまだ新羅時代、その56人の王の中の文武、ブンブと発音なさるんですけど、韓国の発音はムンブワンと発音する王様るとき、創建されたと言われています。はっきりした創建時代ではないんですが、私たちは観光案内の時にそのように説明しているんです。今、写真の方がその正面、ポモサの正門の写真です（写真1）。歴史観光というよりは、釜山市内にあるので、釜山市民が、金井山へ登山で散歩したりしています。そして、韓国でもお寺は、宗教的なすごく大事な意味を持っているので、梵魚寺も信者がすごく多いお寺になっているんです。

次の写真は、女性の方が拝んでいるんですが、これは大学入学試験を前にすると「百日祈り」というのがあって、韓国の母親たちは、こういうふうにお寺に入って3000拝をしていたのです。その拝む様子を撮ってみたんですが、ひじ、ひざ、全部床につけて拝んでいます（写真2）。座布団がすごく長く日本では見られない座布団なんですが、こんな形をしているんです。6月終わりに撮った写真な

んですが、3000 拝の途中でちょっと立ち上がったときで、写真には見られないですが、この女性は汗でびっしょりです。ちょっと休憩入れて、また 3000 拝。やっぱり子供の大学合格を祈る。基本的に 3、6、9 の間に基本あいさつが入るんですが、お願い事があるときは 108 拝や 3000 拝をするのです。ごく大変な母親の役割をしているんですね、韓国のお母さんたちは。こちらはポモサ、梵魚寺の山の景色です（写真 3）。山もきれいで釜山市内からも 2、30 分で来られる場所で、信者や観光客、一般の人も多いところなんです。



写真 1：梵魚寺（ポモサ）正門



写真 2：礼拝の様子



写真 3：梵魚寺の山

慶州の文化遺産と観光

慶州については、さっきも説明がありましたが、紀元前 57 年に王朝が始まったんですが、朴赫居世は紀元前 69 年に紫色の卵から生まれたと言われていたんですね。生まれて、57 年。もう幾つもなっていないんですけど、国を建てて新羅王になったんですね。それで、紀元前 935 年に滅びるまで、約 1000 年間、新羅王朝の都としてこの慶州はずっと続いてきたんです。

その新羅の都の慶州では、石窟庵、仏国寺、博物館、古墳群などを見て回るんですが、こういうところも含めて慶州には遊園地、ゴルフ場、そしていろんな設備もあって、リゾート地としても有名な場所なんです。これらすべての移動時間が 30 分以内で、観光、休養すべてが 1 か所でできるとはすてきな町であると思っています。その中でも、石窟庵、仏国寺は、1995 年には慶州歴史遺跡地区、2000 年には世界遺産に登録されています。

（石窟庵）

まず、石窟庵ですが、今写真に見えているのが吐含山という名前の山です（写真 4）。ハクとフクムの字を使うんですが、慶州市内から約 30 分ぐらい走った所にあります。そこから東の方向には山があって、海拔は 745 メートルぐらいで山の目の前がすぐ東海、皆さんがおっしゃるところの日本海です。この名前は今、韓国と日本どっちが先か後かという議論があるんですが、その海を臨むすぐ

く眺めのいいところに石窟庵があるんです。

吐含山という名前は、すぐ目の前に海があるので、湿気がものすごく多い山で、いつも年中雲がかかっているため、雲を吐いたり、含んだりしている山だということでこういう名前がついたと聞いています。年中霧がかかっているような状態なので、私も、週2～3回ぐらいこの吐含山、石窟庵に訪問するんですが、1年通じて2回ぐらいきれいなオミヒを見られるような感じの景色を持っているところなんですね。

よほどついてないと、すてきな景色、海までの眺めは見られないような場所なんですね。

その石窟庵の建築は、751年、金大城という名前の人が自分の前世の親の冥福を祈るために建築したと言われているんです。写真は入り口の説明をするような場所で、日本語・韓国語・中国語の説明が書いてある場所です（写真5）。こちらが東の海を眺める。写真を撮りに行ったときもやっぱり曇っていて、きれいな海までは見えなかったんです。

全体的な形は前方後円形になっていて、（写真6）円形の石室のドームの真ん中に花崗岩で約350cmぐらいの高さの座像があって、その壁を大きい磨崖仏が囲んでいるんです。3体ぐらいの磨崖仏が壁を囲んでいるんですが、真ん中が四天王像、そして金剛力士、十一面観音や十大弟子、仁王などが壁を飾っているんですね。ここが1913年から1915年まで解体修理された跡。そして、1920年、61年と2回にわたってまた修造工事があったと聞きます。

現在でも問題があるので、室内観覧がガラス張りになっていて、中にも入れないようになっているんです。お寺の関係者は室内、つまり前方後円の円の方に入れるようになっているんです。しかし、年1回お釈迦様の日、韓国では4月8日、陰暦で数えると5月何日ぐらいになるんですが、その一日だけは室内に入ってこういう浮き彫りの彫刻とかが全部目の前で見られるので、そのときはすごく感動があると思います。

（仏国寺）

仏国寺も同じ吐含山の、石窟庵が東を向いててこの仏国寺が南を向いているような形をとっているんです。石窟庵は前世の両親のためといいましたが、同じように、この仏国寺は751年、金大城が現世の両親のため建築したと言われているんです。建築当時は65mぐら



写真4：吐含（トハム）山



写真5：石窟庵入口付近



写真6：石窟庵外観

いの結構大きいお寺だったと聞いているんですが、今観光できるところは5、6か所ぐらいの仏殿を回るようになっているんです。

木造建築が結構古いんですが、木造はもうほとんど残ってないような、もう全部復元というんですか、修造されたような形なので、建築当時の本物が残っているところが国宝に指定されて、それを中心に見て回るような形になってます。木造建築は燃えやすいという欠点があるので、燃えているんですが、仏国寺を案内するときによく出てくるのが、秀吉の話ですね。文禄・慶長の役というんですか、秀吉のときに木造の建築が燃えましたという話も出てきますし、あと何回も火事で全部燃えてしまったので木造部分は全部復元されているものです。今は、日本では本殿という名前なんですけど、韓国は大雄殿という名前と呼んでいる仏殿などの建物が約300年前に復元されて、木造ではそれなりに古い建物になっています（写真7）。これが多宝塔ですね。それと釈迦塔（写真8）。世界遺産、国宝になっているところです。あと仏殿の方ですが、韓国ではお寺の中の仏像に対してカメラを当てるのは失礼ということになっているので写真がちょっと撮れなかったんで、これぐらいにしました。

これは、毘盧殿という建物、毘盧遮那仏という名前の仏像、国宝の仏像を祭っている建物です（写真9）。こういう感じでちょっと見えるんですが、室内がちょっと暗いですね。そして、これは最後、仏国寺の一番眺めのいい写真で雑誌とか必ず出てくる写真なんです（写真10）。こういう形になっています。

それと、さっきの話の続きなんですけど、こういうところの国宝をずっと見て回るんですが、文化財がいろんな時代に焼失とかされたケースが多いので、そういう話を皆さんに話す場合もあるんです。植民地時代とか韓国動乱一朝鮮戦争と日本では呼んでいるんですけど、そのときに文化財焼失という件がすごく多くて、その受け入れに対しても少し皆さんに触れる場所でもあるんですよ。

例えば、釈迦塔の話があります。1966年、慶州市内の骨董品屋さんが夜入ってきて、屋根の中の舍利函を盗もうとした未遂事件があって、捕まったのですが、その事件があってからはその中身は慶州博物館に保存管理されています。お金になると思って何でもできる人間のしわざじゃないかと思いますね。

また、毘盧遮那仏がいる毘盧殿という建物の横に、仏国寺舍利塔というのがあって、宝物になっているんです。これも植民地時代、日帝時代に焼失されたということがあって、返してもらったと表現していいでしょうか、関野貞という方によって、日本に闇のルートで持っていかれたということがわかり、1906年、上野の精養軒という洋食店のお庭にあるのが発見されて、努力してくださって、1933年に朝鮮総督府に正式に寄贈という形式で返還、返してもらった大事なものです。

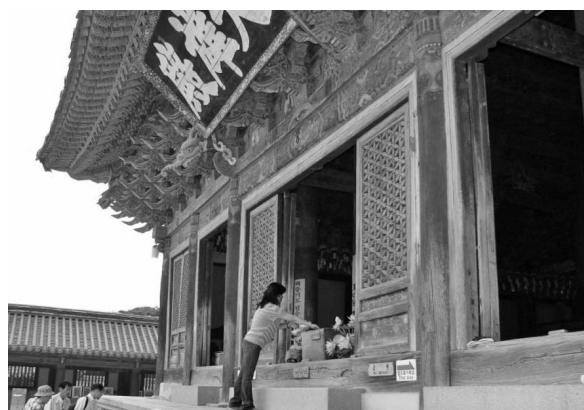


写真7：仏国寺・大雄殿



写真8：仏国寺・多宝塔



写真 9：仏国寺・毘盧殿



写真 10：仏国寺

(天馬塚)

天馬塚、これも慶州の有名な景色の中の1つなんです（写真 11）。円形の大きい古墳が町の中にいっぱいあるので、訪れるとすごくすてきなイメージを持つ場所なんです。慶州市内でも23基ちょっと集まっているところを公園に調整しているんです。大陵苑という名前の公園の中に天馬塚、こちらになるんですが、発掘調査をして室内を展示室に調整しているんです。中に入って古墳の中のつくりがどういうふうになっているのかなど見て回るような形式、つくりになっているんです。こちらは約1500年前つくられたと言われてますし、副葬品が約1万2000点ぐらい出土されたということ、そして入ってみると黄金の飾り物がずらっと並んでいるので、すごく楽しく見て回れる場所なんです。最近ゴルフの料金も高くなってちょっとうれしく思える場所になっています。本物は全部博物館に展示していますが、こういうお墓を訪問すると、お客さんから質問が出るのが「韓国まだ土葬でしょう」という話なんです。親に対して火葬よりは土葬をしてあげたいという気持ちがまだ強い国が韓国ですから

ね。最近新聞に出たんですが、10年に土葬と火葬率が7対3だったんです。それが2005年を境に5対5、そして今は火葬が少しずつ上回ってきているんです。未来のためにはすごくいい方向にしているのではないかと思います。

(慶州国立博物館)

あと博物館です。慶州国立博物館は大きくはないですが、すごく趣のあるところで、展示されているものもすごくすてきなものが多くて、案内するとき私もすごく誇りが持てる場所なんです。最初見えるのが黄金の飾り物、純金のいろんな飾り物がずらっと出てくるので、すごく目の保養になるのではないかと思います。このような感じのつぼの中に卵が入っていて、1500年も前の卵が化石化されてきれいな形で出てきている。それで博物館に展示して、子供たちがすごく喜ぶところなんです。こういうゴールドのお皿、飾り棚ですね。イヤリング、こういういものもいっぱい出てきたので、ブレスレットとか王冠、こういう形の。王冠の飾りとして出てきたものだと思うのですが、蝶の形をしている飾りなんです。こういうネックレス。ここには西洋人の顔が象嵌されているのがかいてあるんで、目のすごく大きい人間の



写真 11：天馬塚

顔が、東洋の人じゃなくて西洋の人の顔ができている瑠璃、ガラス玉がショウミついていたと。これはルビーとかを散りばめた宝剣。

(野外展示)

そして次ですが、また韓国でちょっと変わっていると思うところなんです。博物館の展示、野外展示のところに石仏がいっぱい置いてあるんですが、それは全部鼻が削られているんです（写真12）。これは、韓国だけのものだと思うので、ちょっと説明しようと思います。全国的に石仏の鼻が削られているのは儒教の影響なんです。嫁に行って長男を産まなかったら自分の立場が全然なく、血縁とかすごく大事にする民族なんで、嫁に行って長男を産むまで女性がすごく頑張った証拠なんです。石仏の鼻を削って、溶いて飲むと男の子が生まれるという民間の話によるものなんです。これぐらい切迫した時代だったんですね。それはチョウサンという15、6世紀の時代の話なんです。こういう博物館は1時間以内で、疲れないうちに全部見て回れるからすごく見るかいがあると思います。

現在の文化遺産観光を通して感じること

そして、最後の話ですが、自分が仕事しながらずっと重ねて考えてきたもので結論は出そうとしても余り出せないかもしれませんが、自分なりに考えたものをちょっとお話ししたいと思います。

普段からツアーでいろいろ見て回るときに、日本との戦争や侵略などにかかわるところがすごく多いんですね。この写真は釜山市内の龍頭山公園にある李舜臣將軍の銅像なんです（写真13）。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、秀吉の朝鮮出兵のときに海戦ですごく業績を残した人なんです。公園に大きく銅像をつくって、子供たちもみんなに見てもらおうようになっているところ。だから周りは説明をするような場所になっているんですね。こういう形になっています。これはチョンパル（鄭撥）という名前の將軍なんです（写真14）。こっちも釜山駅から少し離れたところ、中心街のど真ん中にあります。この將軍も戦争が始まって一番最初に上陸した小西行長との戦争で最初に死亡した將軍なんです。場所もここで、こちらに銅像がつくってあるんですね。そして、こちらは子城台と書いてある、チャソンデと言って、海辺の方を向いていて、こちらも戦争のときに毛利輝元という人によって築かれたと言われている城なんです。この写真は、釜山から日本へ通信使を出すときに政府、ソウルの方からおりてきて、釜山のここから出発しますので、船道の安全を祈る場所に建物が今見えているんです（写真15）。

このように、釜山もいろいろありますし、慶州へ行ったらまた仏国寺の話とかいろいろあるんで、こういうことに対して説明をされるとお客さんの反応が結構いろいろ得られるのですが、たまに、かーっと怒られて「韓国ってこういうところしかないのか」とかおっしゃるんですよ。一方、「申しわけございません」とかおっしゃってくださる方もいたり。皆さんを責めるようなところじゃないんですが、黙ってしまって何も表現してくださらない方とかもいらっしゃるんですね。まあ、ちょっと個人的には戸惑う場所なんです。お客さんを



写真12：野外展示の石仏

責めるとか、こういうことを日本はやりましたとか、そういうことを言いたくてやっているのではないんですね。すべて何事でも歴史の中のことなので、これも観光の中の1つじゃないかと思って説明するんですが、実際は触れないようにするときも多いですね。やっぱりちょっとひやっとしてくるような雰囲気は怖くて、もう何も言わないとか、そういうときもあるような実態で。ほかの友達に話を聞いても「やっぱりちょっと触れない方がいいんじゃない」という人もあったりするんです。ちょっと強引な友達は、「ありました」とか言う人もいますが、大半は軽くとかあまり触れないとか、そういう軽い感じで回るところなんですね。お客さんがお金を出して旅行にいらしたので、いいことばかり回る、それもいいんですが、こういうところも説明した方がいいんじゃないかな、と考える時もあるので、最近はちょっと説明をするようにしています。

私は仕事を約12年ぐらいやっているんですが、最近になってツアーのパターンがすごく変わってきているんです。触れ合いということをすごく大事に思うので、修学旅行を行うと、必ず現地、釜山やソウルの学校と交流会をしたりサッカーをしたり、もういろんなスポーツ交流があります。そして今、韓流じゃないですか。「ヨン様」とか言って皆さん、韓国語をすごく上手にしゃべれる女性も随分多くて、そういう個人的な触れ合いなどがすごく深まる。これからも、どんどん深くなる時代になるんじゃないですか。こういうときにこういう考え方でいいのかと思うようになったんですね。

自分が受けてきた教育ですらも、ウルトラナショナリズムとかいうんですか、自分の国ばかりいいところだとか、私も学校のときに、大変すばらしい民族だというような教育を受けてきたんですが、そういう方向が「他より優れた」という感覚で教えられたような気がするんですね。最近は、日本・中国より韓国がいいとか、そういう比べるような教育はちょっと違うんじゃないかなという考え方を
するようになっていきます。もっとクールな意識を持ってお互いにありのまま受け入れる考え方ですね。そういう感じからまたすてきなフレンドシップができるんじゃないかと思うようになっていきます。まとまりが滑らかじゃないんですけど、こういう感じで発表させていただきました。ありがとうございます。(拍手)



写真 13: 李舜臣像 (釜山市龍頭山公園)



写真 14: 鄭撥像



写真 15: 子城台 (チャソンデ) 遠景